

## ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学 薬学部

名前 大野 拓恵

作成日 2020年9月9日

### 【責任】

薬学部に所属し、中心となる教育活動は、主に1年次～3年次の学生に対する英語教育で、英語Ⅱ、医療英語Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、並びに外国人講師と協働での英語コミュニケーション、薬剤師の英会話の授業、および自由科目セミナーの英会話、現役薬剤師を対象とした英会話講座のボランティア活動、さらに今年度からはゼミ生の支援も担当している。また、英語の観点で入試関連業務にも携わっている。

### 【理念】

理念としてあげることは2点ある。1つ目として、医療人を志す学生には、一人の人間とし「誠実で思いやりあること」を望んでいる。それは個人としては責任主体として誠実に自分のなすべきことを行い、努力し続けることを意味し、他者との関係においては、配慮、共感や感謝の思いをもって自分のなすべきことを自ら考え行動することを意味している。しかしながら、昨今、家庭や地域の教育力が弱まったためか、いわゆる「躰が行き届いていないまま」大学に入学してくる学生が目立ち、その対応をしようにも、大学は小・中・高とは異なり、人間形成にかかわる指導の場面も少ない。そこで私が理念として抱いているのが「教科教育を通しての人間形成」である。大学での英語についても、（たとえ苦手な教科だとしても）その学修過程を通して忍耐強く努力する姿勢を習慣化させる一助となること、授業内外での親身な指導を通して自分が大切にされている存在であることや周りへの感謝の気づきを与えること、また学生時代の努力が成功体験の自信となってその後の人生の糧となることを目指した英語教育を実践している。

もう一つの理念として、薬剤師の職業遂行上の英語需要（英語論文で最新の研究動向を知ることや、外国人患者の対応など）が高まってきていることをあわせると、将来のグローバル化に対応できる、より高い資質を持つ薬剤師の育成の一助となる英語教育を実践することがあげられる。確かに「英語」は多くの薬学生にとって国家試験に関係のない「お荷物科目」で、学修への動機づけは弱いかもしれない。しかし高い英語力が備わっていることは、薬剤師としてより広く社会に貢献できることはもちろん、将来の仕事の選択肢を広げることにもつながる。英語の必要性を折に触れて伝えながら、将来役立つ英語教育を提供したい。

## 【方針・方法】

上記の理念を実現するための方針として、「英語教科を通しての人間教育」と「サレンダーバリューとしての英語力の定着」を掲げ、教育活動を行っている。

### 「英語教科を通しての人間教育」

- ・学生に対しては、授業出席や課題の期限など、やるべきことをしっかりやってもらいたいとの思いから、まず教師自らが時間を守り、学生との約束を守る態度を貫いている。
- ・学生を不必要に子ども扱いすることなく、学生自らが計画的に学修を進めていくことができるよう、早めの連絡周知を欠かさない。
- ・やるべきことを自主的にできない学生に対しては、「叱る」のではなく、それをしないことがどのようなことに結びついていくのかを気づかせる対応をする。
- ・学生は決められた期日までにEラン課題を自己のペースで計画的に進めなくてはならず自己の責任を誠実に果たすことを求められる（評価に組み込まれている）。
- ・授業時にペアワークやグループワークを行うことがあり、他の学生と協調することが必要となる。
- ・愛情をもって学生と触れ合い、励まし、人として大切な心の在り方を伝えていく。
- ・Eラン（や、コロナ時の毎回の授業で提出が義務付けられているワークシート）は、努力さえすれば達成できる課題であり、学生は達成感を積み重ねることによって自信を得ていくことができる。

### 「サレンダーバリューとしての英語力の定着」

- ・大学時代にはその必要性が分からず意欲的に学修できなかったとしても、薬剤師になって必要に迫られたとき、自力で学修することを可能としてくれる最低限の英語力を身につけさせる。
- ・学生の英語への興味が少しでも高まるよう、言葉への気づきを促す解説を与える。
- ・薬剤師にとって英語が重要であることの意識付けを行う。
- ・「TOEIC」受験の意識付けを行う。

## 【評価・成果】

- ・毎回の授業評価で、良好な満足度結果、および授業が分かりやすいとの評価を得ている。
- ・ほとんどの学生がEランを期限内に達成することができた。

## 【目標】

- ・短期：TOEIC全体(約200名)の平均が400を超える(2021)。
- ・長期：科学大薬学部出身の薬剤師は仕事で英語が使えるという評価が根付く。